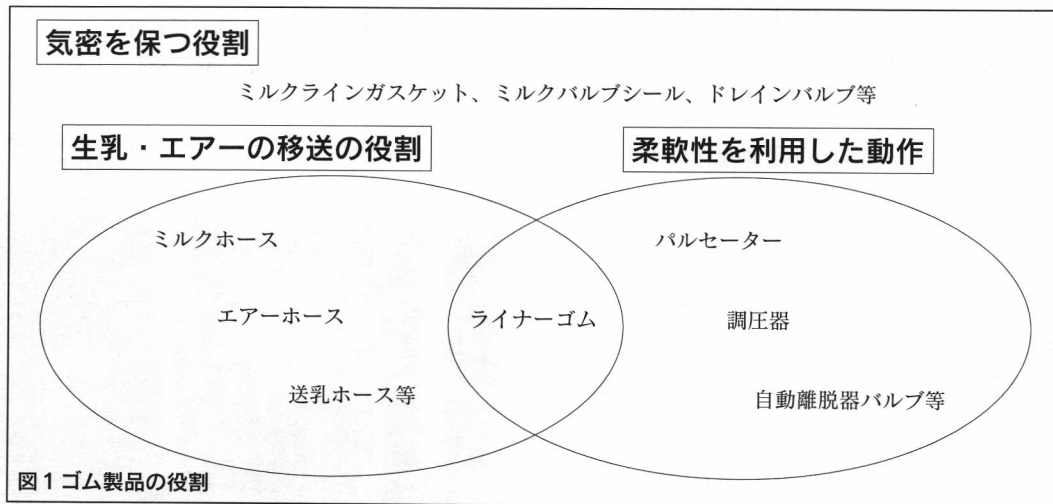


ミルカーゴム部品

ミルカーでは多くのゴム部品が使用されています。劣化してから交換するのでは遅すぎます。設置時の性能を維持出来るよう正しく取扱い、定期的な交換を実施しましょう。

1. ゴム部品の役割

ゴム部品は、真空の気密を保つとともに、①柔軟性を利用した動作、②空気、生乳等の移送の役割を担っています。



2. 劣化

① ゴム部品は徐々に劣化していきますが、生乳や、洗浄液、殺菌液に接している部品は劣化が促進されます。写真1は、洗浄、殺菌で傷んだ送乳ポンプのチェックバルブです。

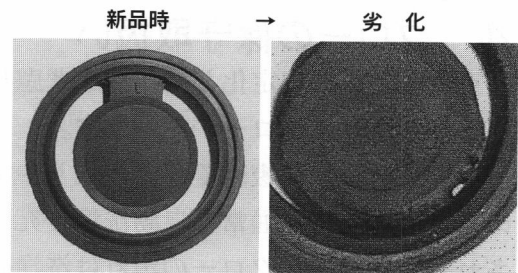


写真1 チェックバルブ

② 繰り返し動作する部品は、見た目では劣化していないように見えても、使用限度を過ぎた物は、本来の機能を維持することはできません。写真2の調圧器のダイヤフラムは1年に1回の交換が必要です。

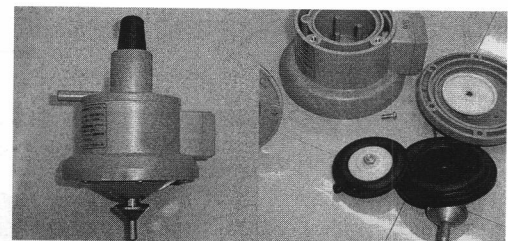


写真2 レギュレータ (調圧器) ダイヤフラム

③ また、使用していなくとも、保管方法が悪い場合は劣化します。

直射日光や、モーターのそばはオゾンが発生しゴムを傷めます。また、高温になる所のそばに保管してもいけません。

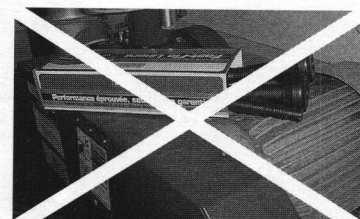


写真3 モーターのそばの保管は厳禁

3 交換

① 生乳・洗浄液に直接触れるゴム部品

劣化すると粗剛になった表面の洗浄不良により、生菌数が増加します。

生乳に直接触れるゴム部品は、1年に1度の交換が望ましいとされています。

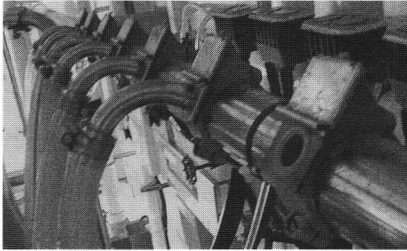


写真4 ミルクバルブシール

ミルクタップのバルブシール、ロングミルクチューブも定期交換します。

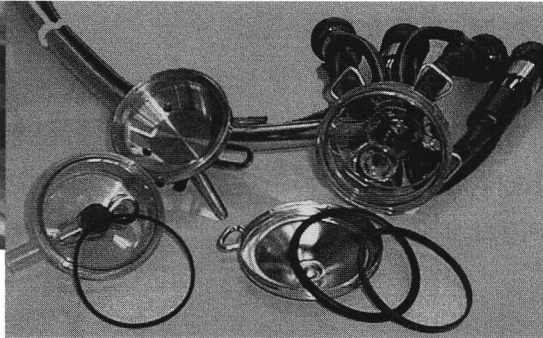
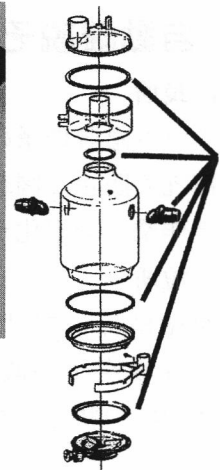


写真5 クロー分解

ミルククローのバッキン、ストップバルブも定期的に交換します。



ジャー周辺には多くのゴム部品が使用されています。

② 生乳と直接接し、ゴムの柔軟性を利用して作動しているゴム部品

図2 ジャー周辺のゴム部品

劣化による洗浄不良と共に、正常な動作がなくなり、乳牛にストレスを与えます。

メーカー指定時期に交換します。

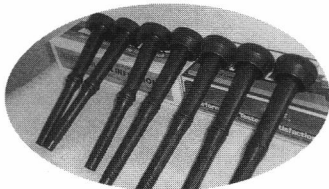


写真6 ライナーゴム

ライナーゴムは、作動と洗浄で劣化します。メーカー指定回数で交換を！

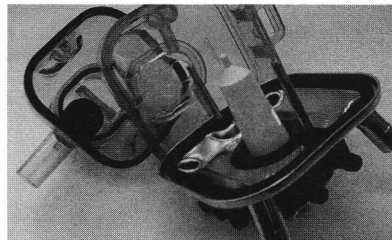


写真7 定圧式クロー

定圧式クローのダイヤフラムも定期交換が必要です！



写真8 自動化装置

自動化装置もゴム部品が使用されています。定期交換が必要です！

③ 生乳と直接触れないゴム部品

生乳と直接触れないゴム部品の交換は2年に1度を目安に交換します

しかし、調圧器（レギュレーター）のように、ゴムの柔軟性を利用し、作動しているものはメーカー指定時期を守り交換します。

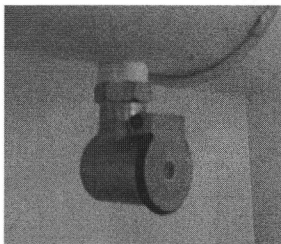


写真9 ドレンバルブ

ドレンバルブの劣化によりエア漏れが occurs。

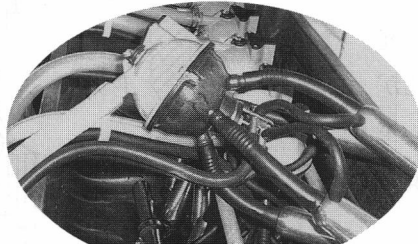


写真10 ユニットゴム部品

二連チューブ、ショートエアチューブが劣化すると正しいパルセーションが行われません。

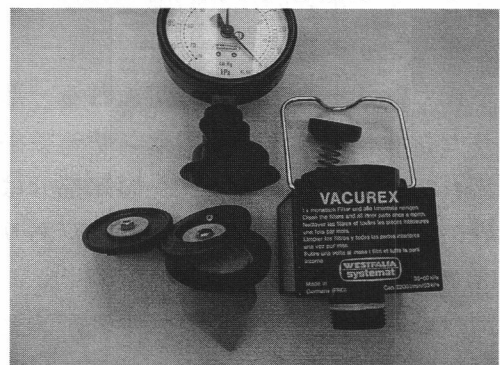


写真11 調圧器ゴム部品

レギュレーターのダイヤフラムは、1000時間稼働や、1年など各メーカーにより交換サイクルが指定されています。

IV やつてますか
器具の管理